

2019年1月7日 一年の計は元旦にあり！

**※一言要約： 何か事を始める時には、計画をきちんと立てよう！**

このことわざの由来は、日本が由来の説と中国が由来の説の2つがあるとのこと。

日本が由来の説は、毛利元就の言葉で、長男の毛利隆元へあてた手紙に教訓として書かれていたとされています。

- 一年の計は春にあり
- 一月の計は朔(ついたち)にあり
- 一日の計は鶏鳴(一番鶏が鳴く早朝)にあり

即ち、新しい一年の計画は、その年の初めに、月の計画は月の初めの日に、そして、今日の計画は、朝早くにたてる。更に、元旦、月初めの日、その日の早朝に計画を立てるだけでは意味がない。元旦、朔(ついたち)、鶏鳴からスタートし、計画を実行していきなさいと言っています。

中国が由来の説は、明の時代の学者、馮慶京(ひょうおうきょう)が著した月令広義(げつれいこうぎ)、で中国の年中行事、儀式を解説した本です。この著の「四計」のなかに、こうあります。

- 一日之計在晨 (一日の計は晨(あした)にあり＝朝にきちんと立てなさい)
- 一年之計在春 (一年の計は春にあり＝元旦にたてなさい)
- 一生之計在勤 (一生の計は勤にあり＝まじめに働くことでまります)
- 一家之計在身 (一家の計は身にあり＝健康で過ごすことでまります)

所説はいろいろあるようですが、新しい年の計画は、年初めの元旦にきちんとたてましょう。

何か事を始める時には、計画をきちんと立てる必要があるということでしょう。